

平成27年度第1回北九州市立図書館協議会 会議録

1 会議名

平成27年度第1回北九州市立図書館協議会

2 議題

- (1) 平成26年度図書館事業結果報告
- (2) これからの図書館サービスのあり方について
- (3) その他（小倉南図書館整備の進捗状況について）
（八幡図書館整備の進捗状況について）

3 開催日時

平成27年 9月 3日（木） 14時00分～15時25分

4 開催場所

北九州市立中央図書館 視聴覚センター2階 第3会議室

5 出席者氏名

(1) 委員（会長他8名、欠席委員7名）

北九州市立大学図書館長	松尾 太加志
北九州市学校図書館協議会副会長	瀬藤 早苗
北九州市学校図書館協議会会長	江口 恵子
九州国際大学図書館長	島浦 一博
福岡県公立高等学校長協会北九州地区会長	固谷 寛
北九州市私立幼稚園連盟副会長	中田 俊澄
公募委員	谷之口 博美
北九州児童文化連盟委員	柴原 佳代子
北九州青年会議所委員	小迫 美緒

(2) 事務局（中央図書館長他8名）

中央図書館館長	石神 勉
中央図書館庶務課長	酒井 国広
中央図書館奉仕課長	埤谷 章子
中央図書館庶務課庶務係長	岩松 栄子

中央図書館庶務課資料係長	有吉 浩一
中央図書館奉仕課奉仕係長	東 豊
中央図書館視聴覚センター館長	三栗谷 進
教育委員会生涯学習課長	梅下 勝己
教育委員会生涯学習課図書館建設担当係長	古郷 浩一

6 傍聴者

なし

7 会議次第

- (1) 中央図書館長挨拶
- (2) 新任委員・新任図書館職員紹介
- (3) 議事（報告、質疑応答）

8 会議経過（発言内容要旨）

新任委員の紹介について

（事務局）

今回の協議会では、新たに1名の委員の方が就任されたので、紹介させていただきます。

新委員は、北九州市学校図書館協議会会長 江口恵子委員です。

(1) 平成26年度図書館事業結果報告

別冊資料「北九州市の図書館（年報）」に基づき、利用状況等について庶務課長より説明。

(2) これからの図書館サービスのあり方について

資料「これからの図書館のあり方について（答申）」、「答申までの具体的な作業等について」、「北九州市が目指す、これからの図書館像」、「これからの図書館像～地域を支える情報拠点をめざして～」、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に基づき、庶務課長より説明。

(委員)

これだけ資料が揃っていて、前提が崩れるようなことを言うのはどうかと思いますが、武雄市のTYUTAYAが入った図書館は、物凄く画期的だと思っています。建ってから2年が経過していますので、行政的に見てどうなのか、といった検証もあって、できたら、新しい取り組みなので、いいところは取り入れたらいいと思いますが、今回の枠組みを決める中で、そういったことも検討しているのか伺います。

(事務局)

武雄市図書館は、TYUTAYAが指定管理者として運営している中で、スターバックスであったり、本を売る書店なども入っていて、にぎわいづくりという面から、武雄市以外からの来館者も多く、注目を集めています。市民の方からは、武雄市図書館のようなにぎわいのある図書館になって欲しいという意見もありました。

そういった中で、今回、中央図書館にある飲食コーナーに、カフェテリアとして店舗を入れて、中央図書館あるいは公園の周りを含めた、にぎわいづくりをしていくよう計画しています。店舗については、公募を行い、現在、いくつかの店舗から応募が来ています。図書館の中で本を売るというのは、まわりに色々な書店があるので無理だと思いますが、人がくつろげるカフェテリア整備などについて考えていきたいと思っています。

(会長)

今、考えたいのは、基本的な視点であって、ただ人が増えるということだけに着目するのではなく、それが図書館としてどういう役割を果たしてくれているのかという視点を持っていないといけません。

その中で、その視点を果たすために、武雄市図書館のこういったことが取り入れられるのかということは、今後、議論していいのかもしれない。

(事務局)

関連して、TYUTAYAの指定管理に関して、選書された本の中に、中古市場で売れなかった本を集めて並べている状況であったり、自動貸出機の利用でTYUTAYAポイントが付き、そのポイントを使ってTYUTAYAで本を買うという流れを作っていて、TYUTAYAの利益になるような形の運営になっていることに対して、武雄市民が、前武雄市長に対して訴訟を起こしていると聞いています。公立図書館としては、色々な問題が出てきていますので、その辺をしっかりと注視していく必要があります。

(会長)

色々な情報がある中で、ネガティブな情報も出てきているので、そこはきちんと考えないといけません。確かに人がたくさん来ているというところのメリットは、それはそれできちんと見てあげないといけません。

(事務局)

前武雄市長が図書館を作った目的は、まちづくりというか、集客という大きな目的であったと思いますが、その意味では成功したのかもしれませんが。しかし、市民にとっての図書館としてはどうなのかという点、賛否両論があります。

きっかけとしては、新たなことをやっているのだから、それが北九州市にとってよいのかどうかということを議論し、それを真似するのではなく、1つの論点として考えていけばよいと思います。

例えば、開館時間を長くすると、たくさんの方が来るかもしれませんが、それだけ人件費が必要となってきます。サービスとコストは裏表の関係にあるので、どういったサービスを効率的に提供していくのかということもしっかり議論していただきたいと思います。

(事務局)

基本的な視点の中で、「これからの図書館像」の資料の中に、色々な先進的な図書館の取り組み事例がありますので、武雄市図書館も含めて、よいものは積極的に取り入れて、市民に愛される図書館づくりをしていきたいと思っています。

(会長)

検討小委員会で議論しましたが、5つの視点というのは、かなり包括的に色々な視点が入っていますが、基本的に図書館というのは、そんなに大きく展開するものではありません。これまでの視点と基本的に枠組みは変わらないのですが、こういう形で議論していてもよいのではないかと思います。

(委員)

私の勤務先の近くに、新門司分館があり、結構そこに、地域の方や子どもたちが通っていますが、そのような分館をそれぞれの地域に作るのには不可能だと思います。では、どうしたらよいかという点、各校区にある市民センターに、今も本を置いています。そこに、市民センターと相談して、分館的な図書コーナーを作って、図書館でそれを管理するのは難しいので、市民センターと協力して、何か知りたいことがあったら、他の図書館と連携を組んで、職業であれば職業安定所と連携を組んで、市民センターや図書館や分館それぞれで役割を担うようなネットワークづくりは出来ないでしょうか。

(事務局)

現在、市民センターには、ひまわり文庫という形で、何百冊か本を置いていて、市民センターの周りの人たちに、貸し出し等の利用ができるようにしています。

また、数ヶ月に1回、図書館の職員が各市民センターに行き、本の入れ替えもしています。

(委員)

それは、全部の市民センターで行っているのですか。

(事務局)

全部の市民センターで行っています。小学校区が、今、129校区ありますが、ひまわり文庫の数も129あります。

委員が言われたのは、ひまわり文庫のボリュームを充実できないかということと、市民センターでは本の貸し借りが中心となっていますが、子どもたちや地域の方たちが何か調べたいときや疑問があれば、図書館では、さらに深く司書から調査の支援を受けられるので、そういうことを市民センターの職員が大きな図書館や分館に繋ぐことができないかということかと思えます。

また、就職とか終活とか何か課題があったら、それについてさらに調べたいのだけどというコーディネート的なことを市民センターの職員が介在して出来ないかというようなイメージかと思うのですが、それについては、図書館の枠組みを超えますが、生涯学習課が中心となって生涯学習推進計画を見直しています。市民センターの館長や職員の資質向上、市民センターを中心としたネットワークづくりとその地域資源を生かしていくということも検討していますし、図書館ということだけではなく、市民センターの職員やひまわり文庫も含めた市民センターの資源を生かしていくということは、図書館の方から見てもアプローチできるのではないかと思います。

(会長)

基本的な視点の中のいくつかの観点で議論が進んでいますが、具体的なところは、これから、また検討していくということで、一応、基本的な視点としてはこういう形でいいと思います。

資料「北九州市生涯学習推進計画の体系」、「子どもの未来をひらく教育プラン」、「子ども読書プラン」、「子どもの読書活動に関する意識調査」、「子ども読書活動推進条例」、「公共施設マネジメント」、「北九州市公共施設マネジメントの考え方（方向性）」に基づき、生涯学習課長より説明。

別紙「『北九州市子ども読書活動推進会議』と『北九州市立図書館協議会』の関係性について」に基づき、庶務課長より説明。

資料「北九州市立図書館のあり方に関するアンケート」、「アンケート調査の実施について」、「一般市民用アンケート用紙（案）」、「図書館利用者用アンケート用紙（案）」、「高校生用アンケート用紙（案）」に基づき、庶務課長より説明。

(委員)

調査対象者ですが、20歳以上の北九州市民となっていますが、敢えて、20歳以上なのですか。選挙権が18歳以上になったので、18歳以上でもいいのではないかと気がします。

(事務局)

高校生にも別にアンケートをしますので、20歳以上としています。

前回のアンケートも20歳以上としていましたが、年齢区分を合わせることで、経年比較するようにしています。

(委員)

調査対象の(1)の20歳以上の北九州市民と(2)の図書館利用者が重なることはないのですか。図書カードを利用して、20歳以上の人を選別したりするのですか。

(事務局)

調査対象者が重なる可能性はありますが、20歳以上の北九州市民のサンプル数が3,000人を考えていますので、殆ど重なることはないと思います。

20歳以上の北九州市民については、無作為に抽出するようにしていますので、その中に図書館利用者も入ると思いますが、その図書館利用者が、さらに図書館で利用者としてアンケートに答える可能性は低いと思います。

(3) その他

資料「小倉南図書館整備の進捗状況について」、「八幡図書館整備の進捗状況について」に基づき、生涯学習課長より説明。

資料「図書館だより」に基づき、庶務課長より説明。